

第1章 日本で開催された国際会議の動向

	はじめに ～ 2021年JNTO国際会議統計の発行に当たって	2頁
	本章で使用する「JNTO国際会議統計」について	4頁
1	年別 国際会議の開催状況（開催件数、参加者数、開催延べ日数）	5頁
2	規模別 国際会議の開催状況①（開催件数、平均外国人参加者数）	6頁
3	規模別 国際会議の開催状況②（中・大型国際会議の開催件数、外国人参加者数）	7頁
4	分野別 国際会議の開催状況（開催件数、外国人参加者数）	8頁
5	月別 国際会議の開催状況①（開催件数）	9頁
6	月別 国際会議の開催状況②（外国人参加者数）	10頁
7	都市別 国際会議の開催状況①（参加者数）	11頁
8	都市別 国際会議の開催状況②（外国人参加者数）	12頁
9	ハイブリッド国際会議の開催状況	13頁
10	会場別 国際会議の開催状況（開催件数、参加者数）	14頁

はじめに ～ 2021 年 JNTO 国際会議統計の発行に当たって

2021 年は、2020 年以降 COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の世界的な拡大・長期化に伴う水際措置や国際的な移動の制約が続いた影響により、外国人の会議参加者の訪日が困難となり 222 件へ激減した 2020 年から更に 29 件へと激減し、過去最高を記録した 2019 年比では 99.2%減で 1%にも満たない状況となりました。参加者総数も 2020 年（96,271 人）を更に下回る 55,221 人となり、2019 年比では 97.2%減の厳しい状況で、件数とともに、現行基準の下で過去最低となりました。

この結果、日本全国において国際会議の開催が事実上ほぼ困難な状況に陥っていたことがわかります。

2021 年は、上述の通り 2020 年同様、特殊な環境変化の中、本統計の作成にあたっては、統計としての連続性を図る観点から、従来通りの基準に基づき集計を行い、本統計掲載の各種国際会議データを分析したもので、冒頭で記した国際会議件数および参加者総数は本基準を満たした国際会議のみにかかる実績となっています。

このため、本統計で集計の国際会議データは、日本全国から収集した 2021 年の国際会議開催情報の一部に留まるという結果となりました。

もっとも、国際会議の JNTO 基準を満たすか否かを問わず、COVID-19 によって巻き起こされた本邦における国際会議開催への影響の実態を知ることは、国際会議関係者にとって、今後の開催検討等にあって意義のあることと認識します。

そこで、本統計の本編に先立ち、JNTO が今年全国から収集したデータに基づき、2021 年の日本における国際会議開催状況に COVID-19 が及ぼした影響の実態につき、その傾向を把握すべく努めた結果として以下の通り概説することとします。

注：基準外の国際会議データについては、基準内国際会議のような個別の内容確認を経ていないため、以降記載の各データは未精査の参考数値であることにつき予めご理解ください。

COVID-19 による影響の概要

去る 2020 年 2 月以降、入国拒否や検疫強化、査証無効化等の水際措置が順次実施され、その強化・拡大とともに国際会議開催件数は目に見えてその数を減じ、その後も国際的な移動の制約等の影響により、厳しい状況が 2021 年も継続しました。

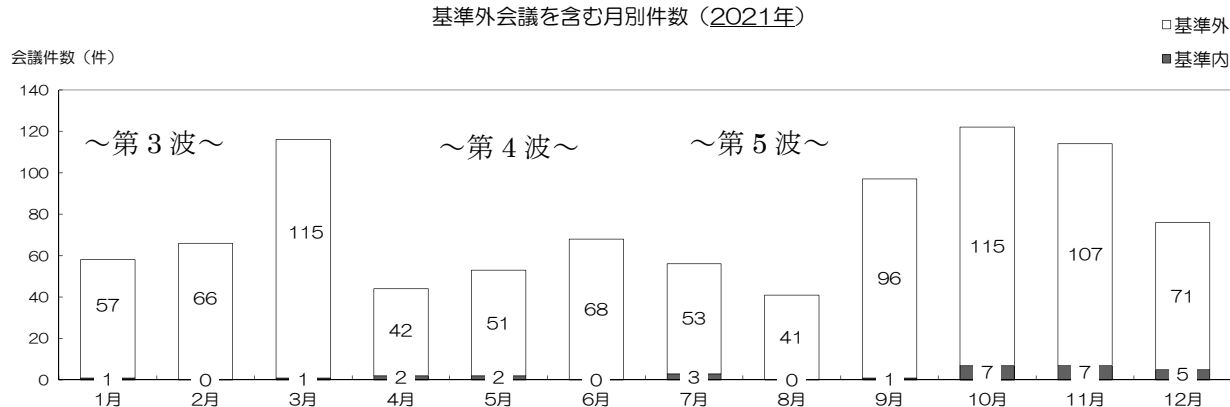
他方、当初は中止や延期を余儀なくされたものの、何らかのオンライン手法を活用した会議（以下、「リモート会議」という。）へシフトしていき、この手法が開催形態の一つとして浸透したことも窺えました。

具体的には、会場での参加が不可能であったため、現行の定量基準（「日本を含む 3 居住国・地域以上」、「参加者総数 50 名以上」）を満たさず、本統計の実績としては計上に至らなかった会議のうち、リモート形式による参加者がもし実際に会場に出席していれば上記定量面は満たし得た会議が少なくとも 882 件あったことが分かっています。

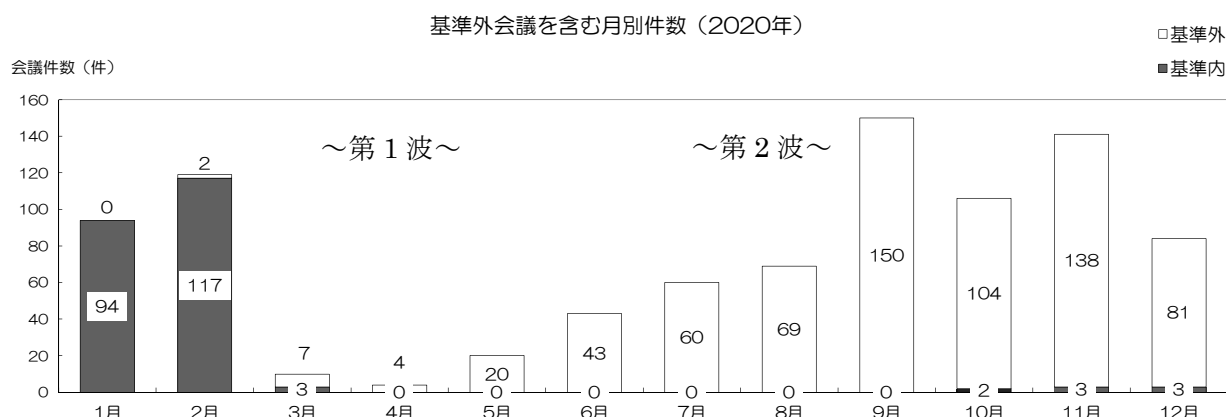
これらは COVID-19 による制約がなければ、本来は 29 件という本統計上の国際会議件数に加えて（仮に定性基準も満たし得た場合は）加算され得たとも考えられ、これを加味して試算すれば基準を満たし得た会議の件数は、2020 年の 900 件と同規模の 911 件となっていたことが推認されます。

これらを月別の開催件数で 2020 年と 2021 年をまとめますと、右のグラフのようになります。

基準外会議を含む月別件数（2021年）



基準外会議を含む月別件数（2020年）



水際措置の実施前である2020年1月及び2月は月に100件前後開催されていた会議(基準内)が、3月以降は翌年9月までCOVID-19の新規陽性者数のピーク(2020年から2021年までの第1波～第5波)に連動して殆ど(月3件以下)開催されなかったものの、2021年10月以降は若干の回復傾向が見られました。一方、リモート化により基準外の会議は2020年5月以降徐々に増え始め、2021年まで一年半以上に亘り続いた結果、海外からもリモートで参加できたことで国際会議の開催に繋がったことが伺えます。他方、先述の911件という開催件数でも2019年実績である3,621件の僅か4分の1程度であったことから、リモート会議を加味しても依然として国際会議開催のハードルが高いままであったことが推測されます。

注：既述のとおり、上記の国際会議基準未達の会議データについては、内容の精査を経ない参考数値であるため、付随的にICCA（国際会議協会）作成・公表の統計内容を以下紹介します。

ICCAによると、2021年における世界全体の国際会議件数は前年比30%減の534件（2019年比では96%減）、COVID-19による影響結果について、「影響なし」が6.7%にとどまった一方、「オンライン」が47.0%、「ハイブリッド」が13.2%と開催形態の多様化により実質的に開催できた会議が66.9%を占めました。他方、「延期」が27.3%、「中止」が4.2%で、前年の半分程度まで減少しています。（23ページ図表2-8参照）

2022年の国際会議においても、世界的なCOVID-19蔓延の影響を受けたデータとなることは必至ですが、第5波以上の新規陽性者数であった第6波、第7波の状況を踏まえ、JNTOでは引き続き国際会議の開催状況を注視してまいりたいと考えます。

以上

本章で使用する「JNTO 国際会議統計」について

本章は、日本政府観光局（JNTO）が、関係府省庁、自治体、コンベンション推進機関などのご協力を得て国際会議の開催情報を収集し、そのデータを集計・分析したもので、日本で開催された国際会議の概要を把握する唯一の指標となっています。なお、本章のデータは、以下の選定基準に基づいて集計しています。

国際会議の選定基準

対象とするもの

*以下の①～④を全て満たす国際会議を、「国際会議」とします。

- ①主催者：「国際機関・国際団体（各国支部を含む）」又は「国家機関・国内団体」（各々の定義が明確ではないため、「公共色を帯びていない民間企業」以外は全て。）
- ②参加者総数：50名以上
- ③参加国数：日本を含む3居住国・地域以上
- ④開催期間：1日以上

対象にならないもの

1. 開催目的 主催団体による営利活動や内部活動としての会合や集会
 - 営利活動を目的とするもの
例：企業内会議、商談、勧誘・宣伝活動（投資セミナー、観光セミナー、留学支援セミナー）
 - 主催団体の内部活動
例：教育機関がカリキュラムの一環として行う授業や講義、カルチャースクール等の教育文化活動プログラム、団体内の研修会、宗教団体の儀式・集会・勧誘
2. 開催の様態 会議や講演会の実態がない会合や集会
 - 興行上のサービス
例：コンサート、映画上映会、舞台挨拶 ※付随するトークショーも興行上のサービスとみなします。
 - 単なるセレモニー
例：開会・閉会式、〇〇周年記念式典
 - 上位会議の分科会
例：学会開催時における個別の分科会、大規模フォーラムの個別セッション
 - 単なるイベント
例：展示会、スポーツ大会、国際交流パーティー
3. その他
以下の情報が不足している会議も対象外となります。
 - 「参加国数」、「国内参加者数」、「海外居住外国人参加者数」の内訳（「展示会が主体となっており、その中に組み込まれている会議」においては、展示会全体ではなく会議そのものの上記情報）
 - 一般に公開されているセミナー、シンポジウム、討論会のうち、海外に居住する講師や参加者を招聘・募集したことを示す資料

国際会議参加者の取り扱い

- 外国人参加者数には、国際会議の出席を目的に来日した会議代表、オブザーバー、同伴家族を含みます。但し、報道関係者、在日外国人（留学生を含む）は含めません。

国際会議開催日数の取り扱い

- 国際会議開催日数には、会議の前後または合間の日に開催されるレセプション、視察旅行、観光旅行を含めず、純粋な会議日数のみを計上しています。（但し2012年～2014年は会議の前後または合間の日に開催されるレセプション、視察旅行、観光旅行を含めて計上しています。）

1

年別 国際会議の開催状況（開催件数、参加者数、開催延べ日数）

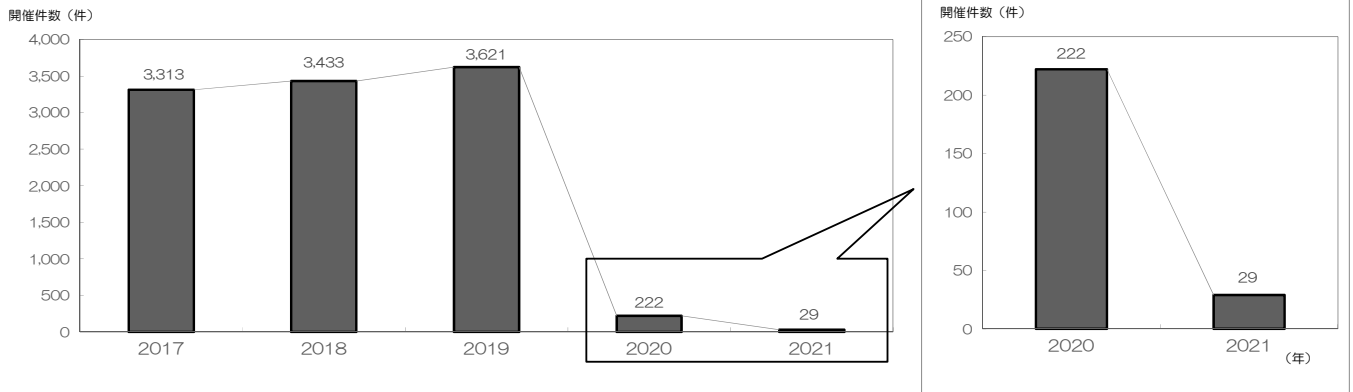
— COVID-19の拡大・長期化により過去最低に —

2021年に日本で開催された国際会議の件数は、COVID-19の拡大・長期化に伴う国際的な移動の制約が続いたことにより、2020年の222件から29件（対前年比86.9%減）へ更に激減し、2019年比では99.2%減となり、1%にも満たない件数となった。参加者総数も2020年の96,271人から42.6%減の55,221人、外国人

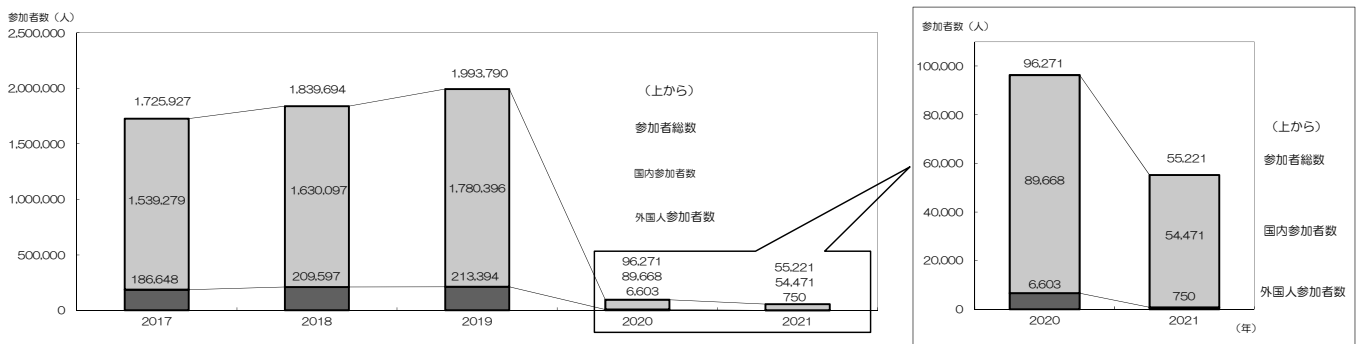
参加者数も6,603人から88.6%減の750人で、件数及び人数ともに現行基準下で過去最低となった。

国際会議1件あたりの平均開催日数は前年より0.77日増の3日、開催延べ日数は対前年比82.4%減の87日であった。

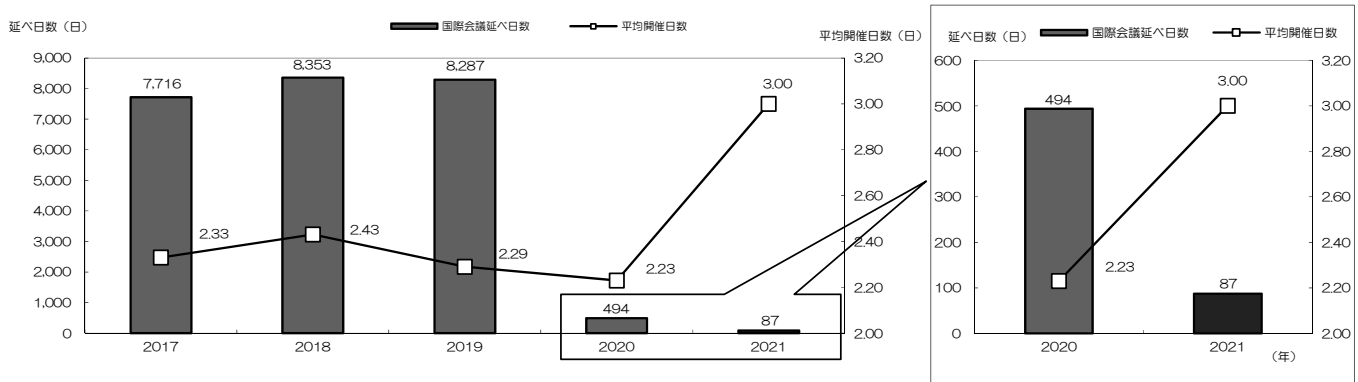
図表1-1 年別 国際会議の開催件数（2017年～2021年）



図表1-2 年別 国際会議の参加者数（2017年～2021年）



図表1-3 年別 国際会議の開催延べ日数、平均開催日数（2017年～2021年）



〔図表1-2〕注：会議以外の要素が含まれている国際会議（展示会主体の併設会議など）に関しては、会議部分の参加者数を計上している。

2

規模別 国際会議の開催状況① (開催件数、平均外国人参加者数)

－ 300人未満の会議のシェア減少 －

2021年に開催された国際会議を規模別に見ると、300人未満の小規模会議の開催件数が4割超を占めた。全体の件数が激減した影響があるものの、前年の7割超から大きくシェアが減った。また、国際

会議1件あたりの平均外国人参加者数は前年比12.8%減の25.9人となった。

図表1-4 規模別 国際会議の開催件数(2012年~2021年)、平均外国人参加者数(2021年)

参加者総数	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2021年 1件あたりの平均外国人参加者数
100人未満	601	648	694	850	980	1,170	1,176	1,302	88	4	19.8
100~199人	655	721	726	743	813	859	834	912	60	4	26.0
200~299人	285	300	358	334	389	380	386	364	22	4	20.3
300~399人	182	172	180	184	203	181	216	217	14	2	146.0
400~499人	88	92	100	114	116	109	121	116	5	1	66.0
500~599人	80	78	79	91	103	87	94	99	5	2	5.0
600~699人	49	48	54	59	67	53	89	83	4	0	-
700~799人	33	29	25	46	33	36	37	50	3	2	10.5
800~899人	38	40	31	33	44	39	39	40	1	0	-
900~999人	23	22	13	31	17	25	40	33	2	1	10.0
1000~1099人	43	31	44	29	37	58	71	51	3	1	6.0
1100~1199人	13	12	10	11	16	17	19	17	2	1	12.0
1200~1299人	19	20	19	26	21	21	21	25	1	0	-
1300~1399人	13	6	7	12	8	18	9	7	1	0	-
1400~1499人	6	7	8	5	6	13	18	17	0	0	-
1500~1599人	16	16	18	25	18	18	17	26	0	0	-
1600~1699人	10	10	6	6	14	9	16	13	0	2	12.5
1700~1799人	7	6	4	14	5	5	6	10	0	0	-
1800~1899人	6	6	15	9	16	14	10	17	0	0	-
1900~1999人	3	4	7	7	2	5	4	10	0	0	-
2000人以上	167	159	192	218	204	196	210	212	11	5	8.8
合計	2,337	2,427	2,590	2,847	3,112	3,313	3,433	3,621	222	29	25.9

図表1-5 規模別 国際会議の開催件数 構成比(2012年~2021年)

参加者総数	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
100人未満	25.7	26.7	26.8	29.9	31.5	35.3	34.3	36.0	39.6	13.8
100~199人	28.0	29.7	28.0	26.1	26.1	25.9	24.3	25.2	27.0	13.8
200~299人	12.2	12.4	13.8	11.7	12.5	11.5	11.2	10.1	9.9	13.8
300~399人	7.8	7.1	6.9	6.5	6.5	5.5	6.3	6.0	6.3	6.9
400~499人	3.8	3.8	3.9	4.0	3.7	3.3	3.5	3.2	2.3	3.4
500~599人	3.4	3.2	3.1	3.2	3.3	2.6	2.7	2.7	2.3	6.9
600~699人	2.1	2.0	2.1	2.1	2.2	1.6	2.6	2.3	1.8	0.0
700~799人	1.4	1.2	1.0	1.6	1.1	1.1	1.1	1.4	1.4	6.9
800~899人	1.6	1.6	1.2	1.2	1.4	1.2	1.1	1.1	0.5	0.0
900~999人	1.0	0.9	0.5	1.1	0.5	0.8	1.2	0.9	0.9	3.4
1000~1099人	1.8	1.3	1.7	1.0	1.2	1.8	2.1	1.4	1.4	3.4
1100~1199人	0.6	0.5	0.4	0.4	0.5	0.5	0.6	0.5	0.9	3.4
1200~1299人	0.8	0.8	0.7	0.9	0.7	0.6	0.6	0.7	0.5	0.0
1300~1399人	0.6	0.2	0.3	0.4	0.3	0.5	0.3	0.2	0.5	0.0
1400~1499人	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.4	0.5	0.5	0.0	0.0
1500~1599人	0.7	0.7	0.7	0.9	0.6	0.5	0.5	0.7	0.0	0.0
1600~1699人	0.4	0.4	0.2	0.2	0.4	0.3	0.5	0.4	0.0	6.9
1700~1799人	0.3	0.2	0.2	0.5	0.2	0.2	0.2	0.3	0.0	0.0
1800~1899人	0.3	0.2	0.6	0.3	0.5	0.4	0.3	0.5	0.0	0.0
1900~1999人	0.1	0.2	0.3	0.2	0.1	0.2	0.1	0.3	0.0	0.0
2000人以上	7.1	6.6	7.4	7.7	6.6	5.9	6.1	5.9	5.0	17.2

[図表1-4の平均外国人参加者数] 注: 会議以外の要素が含まれている国際会議(展示会主体の併設会議など)に関しては、会議部分の参加者数を計上している。

[図表1-5] 注: 構成比は小数点第二位を四捨五入して計算しているため、各構成比の合計は必ずしも100にはならない。

3

規模別 国際会議の開催状況② (中・大型国際会議の開催件数、外国人参加者数)

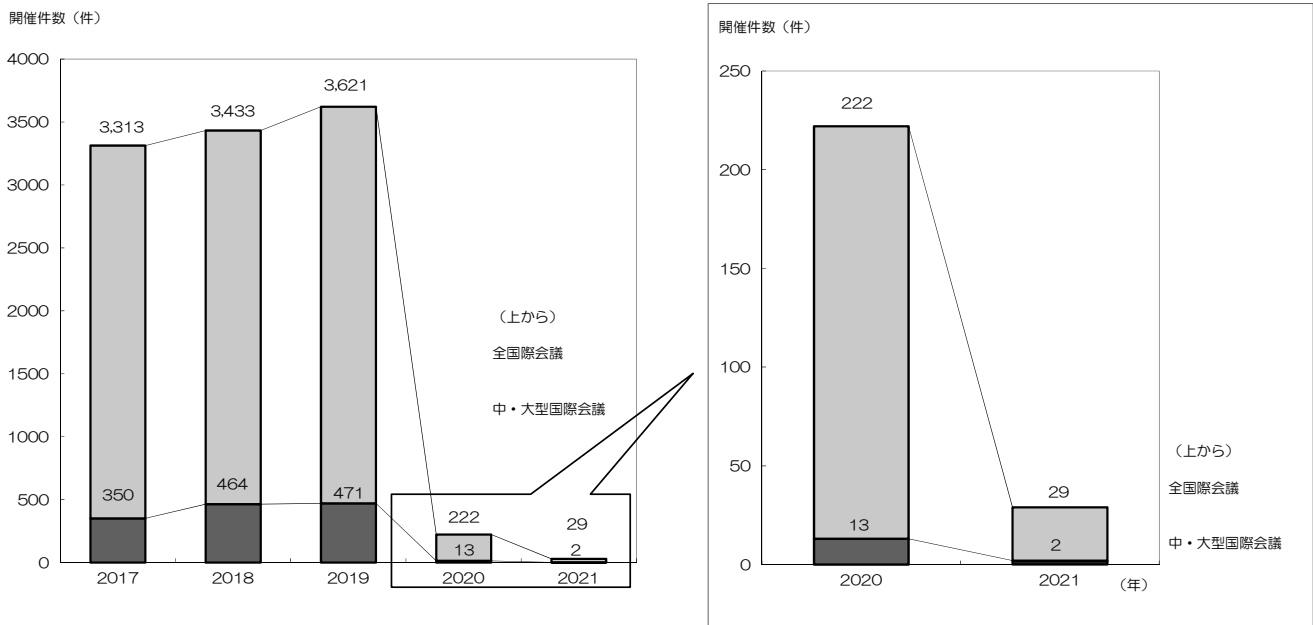
— 中・大型国際会議の外国人参加者数が4割超を占有 —

2021年の中・大型国際会議《注参照》の開催件数は前年の13件から84.6%減の2件となり、現行基準下で過去最低を記録した。外国人参加者数は316人(対前年比87.7%減)であった。

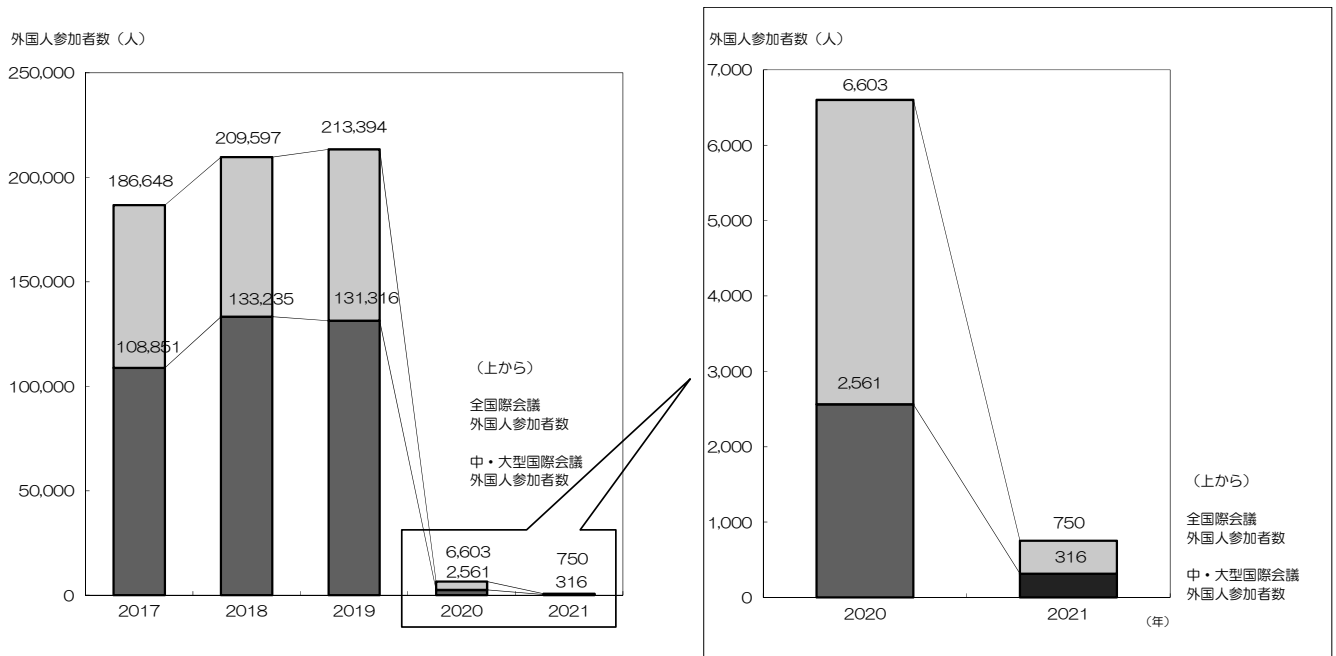
中・大型国際会議は全件数に占める割合は6.9%であるのに対し、

外国人参加者数では42.1%を占めており、少ない件数でもインバウンド推進に資するため、中・大型国際会議の誘致は効果的という特長が現れている。

図表1-6 国際会議の開催件数と中・大型国際会議の開催件数(2017年~2021年)



図表1-7 国際会議の外国人参加者数と中・大型国際会議の外国人参加者数(2017~2021年)



☞ 中・大型国際会議：外国人参加者数50人以上、および、参加者総数300人以上の会議

〔図表1-6、1-7〕注：会議以外の要素が含まれている国際会議（展示会主体の併設会議など）に関しては、会議部分の参加者数を計上している。

4

分野別 国際会議の開催状況（開催件数、外国人参加者数）

－ 「医学」と「科学・技術・自然」の2分野で8割超 －

分野別の国際会議の開催件数、構成比をみると、「医学」が13件（44.8%）と最も多く、次いで「科学・技術・自然」が11件（37.9%）で、この2分野で全体の8割超を占めた。

外国人参加者数では、「政治・経済・法律」が250人と拮抗

したものの、「科学・技術・自然」が262人と最も多くなった。これらに「医学」を加えた3分野で9割を超え、前年（75.6%）からシェアを大きく拡大した。

図表1-8 分野別 国際会議の開催件数、構成比（2012年～2021年）

※上段：件数、下段：構成比（%）

分野	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
政治・経済・法律	245 (10.5)	285 (11.7)	291 (11.2)	249 (8.8)	316 (10.2)	361 (10.9)	378 (11.0)	435 (12.0)	25 (11.3)	1 (3.5)
科学・技術・自然	1,015 (43.4)	1,077 (44.4)	1,085 (41.9)	1,222 (42.9)	1,421 (45.7)	1,415 (42.7)	1,395 (40.6)	1,507 (41.6)	108 (48.7)	11 (37.9)
医学	495 (21.2)	480 (19.8)	482 (18.6)	546 (19.2)	577 (18.5)	589 (17.8)	702 (20.5)	631 (17.4)	39 (17.6)	13 (44.8)
産業	111 (4.8)	119 (4.9)	159 (6.1)	128 (4.5)	119 (3.8)	124 (3.7)	165 (4.8)	163 (4.5)	5 (2.3)	0
芸術・文化・教育	220 (9.4)	253 (10.4)	344 (13.3)	337 (11.8)	344 (11.1)	396 (12.0)	446 (13.0)	481 (13.3)	20 (9.0)	1 (3.5)
社会	150 (6.4)	93 (3.8)	111 (4.3)	193 (6.8)	184 (5.9)	260 (7.9)	204 (5.9)	210 (5.8)	13 (5.9)	3 (10.3)
運輸・観光	10 (0.4)	20 (0.8)	19 (0.7)	24 (0.8)	14 (0.5)	34 (1.0)	28 (0.8)	33 (0.9)	4 (1.8)	0
社交・親善	26 (1.1)	37 (1.5)	47 (1.8)	70 (2.5)	72 (2.3)	46 (1.4)	47 (1.4)	32 (0.9)	2 (0.9)	0
宗教	2 (0.1)	4 (0.2)	4 (0.2)	7 (0.3)	8 (0.3)	9 (0.3)	6 (0.2)	11 (0.3)	0 (0.0)	0
スポーツ	9 (0.4)	8 (0.3)	6 (0.2)	19 (0.7)	17 (0.6)	29 (0.9)	20 (0.6)	37 (1.0)	0 (0.0)	0
その他	54 (2.3)	51 (2.1)	42 (1.6)	52 (1.8)	40 (1.3)	50 (1.5)	42 (1.2)	81 (2.2)	6 (2.7)	0
合計	2,337	2,427	2,590	2,847	3,112	3,313	3,433	3,621	222	29

図表1-9 分野別 国際会議の外国人参加者数（2012年～2021年）

分野	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
政治・経済・法律	20,242	13,454	18,964	13,472	17,803	22,547	28,255	24,403	541	250
科学・技術・自然	62,176	63,144	71,019	79,113	80,796	75,682	90,335	93,490	3,970	262
医学	30,038	30,323	43,734	35,012	48,404	40,246	43,586	35,735	481	187
産業	20,333	8,836	12,051	11,072	13,138	9,421	13,447	12,741	117	0
芸術・文化・教育	7,259	10,698	18,941	20,186	25,938	21,081	17,436	20,184	990	2
社会	9,923	5,406	6,986	6,328	7,388	8,329	5,849	5,684	242	49
運輸・観光	1,163	1,035	1,115	2,210	993	1,811	954	2,270	88	0
社交・親善	1,296	938	1,930	2,253	16,653	1,296	4,784	3,463	5	0
宗教	828	27	234	172	922	533	562	2,760	0	0
スポーツ	1,672	689	1,159	906	1,920	1,373	2,559	3,808	0	0
その他	1,984	2,003	2,600	4,309	2,067	4,329	1,830	8,856	169	0
合計	156,914	136,553	178,733	175,033	216,022	186,648	209,597	213,394	6,603	750

〔図表1-8〕 注：構成比は小数点第二位を四捨五入して計算しているため、各構成比の合計は必ずしも100にはならない。

〔図表1-9〕 注：会議以外の要素が含まれている国際会議（展示会主体の併設会議など）に関しては、会議部分の参加者数を計上している。

5

月別 国際会議の開催状況 ① (開催件数)

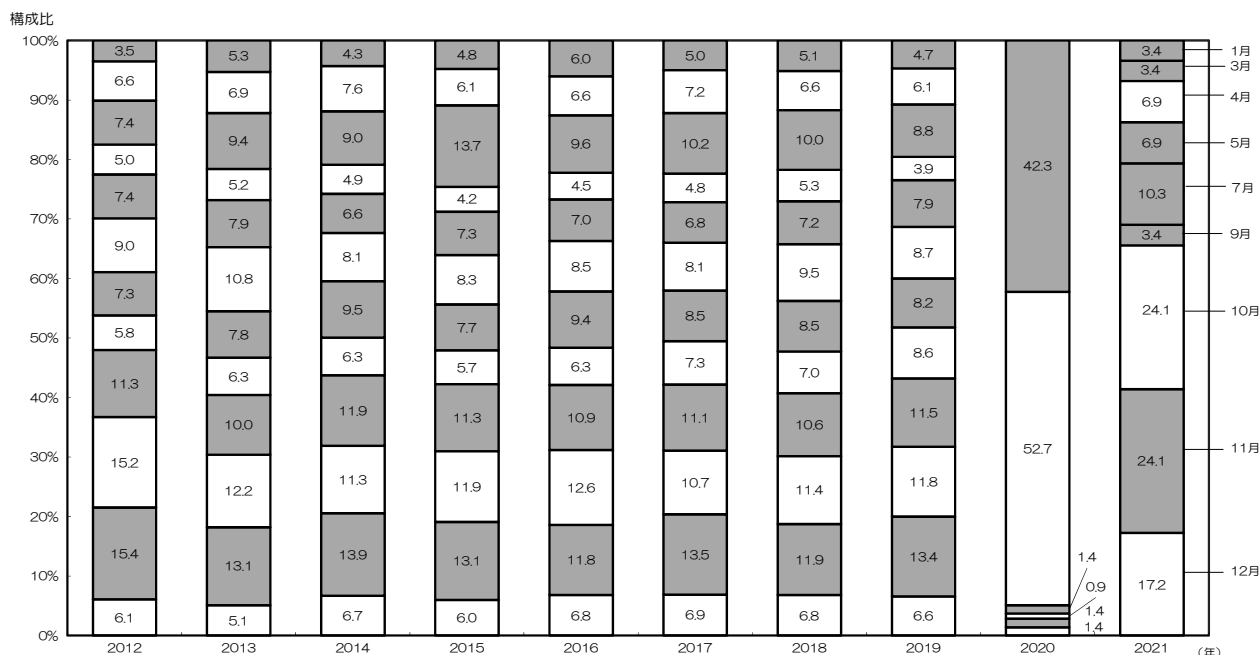
— 年間を通じて厳しい開催環境 —

2021年の国際会議はCOVID-19の影響もあり1～9月は各月0～3件の開催に留まった。10月以降やや回復の兆しを見せ、12月までの3か月だけで6割超を占めたものの、ほぼ年間を通じ厳しい開催環境となった。

図表1-10 月別 国際会議の開催件数 (2012年～2021年)

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1月	82	129	111	136	187	164	174	169	94	1
2月	154	167	197	175	205	239	228	221	117	0
3月	173	227	233	391	300	338	342	317	3	1
4月	116	126	126	119	140	159	183	141	0	2
5月	172	191	170	207	219	224	248	285	0	2
6月	210	261	210	235	264	270	326	315	0	0
7月	171	190	247	218	291	281	292	297	0	3
8月	136	153	163	163	196	241	241	311	0	0
9月	264	243	308	321	338	368	364	416	0	1
10月	356	297	292	339	393	354	392	426	2	7
11月	360	319	360	372	367	446	410	484	3	7
12月	143	124	173	171	212	229	233	239	3	5
合計	2,337	2,427	2,590	2,847	3,112	3,313	3,433	3,621	222	29

図表1-11 月別 国際会議の開催件数の構成比 (2012年～2021年)



〔図表1-10、1-11〕 注：国際会議が月をまたがって開催されている場合、開催日数が多いほうの月に計上した。また、この場合、開催日が前の月と後の月で同数であれば前の月に計上した。

〔図表1-11〕 注：構成比は小数点第二位を四捨五入して計算しているため、各構成比の合計は必ずしも100にはならない。

6

月別 国際会議の開催状況 ② (外国人参加者数)

—10月～12月の3か月で過半数を占める—

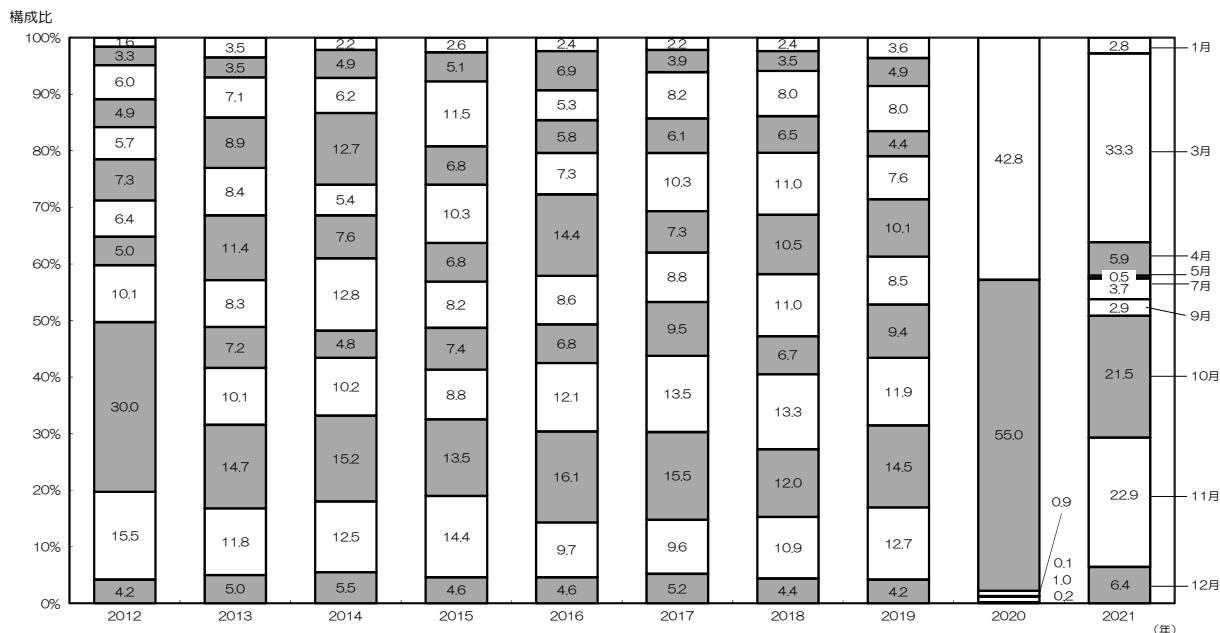
2021年の国際会議の月別の外国人参加者(海外居住者)数は、100人を超えた月が3月、10月、11月のみとなり、開催件数に連

動して分散した。開催件数で回復の兆しを見せた10月～12月の3か月の外国人参加者数(381人)は、全体の過半数に達した。

図表1-12 月別 国際会議の外国人参加者数(2012年～2021年)

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1月	2,472	4,846	3,923	4,560	5,242	4,094	4,957	7,745	2,828	21
2月	5,188	4,730	8,745	8,886	15,004	7,288	7,375	10,398	3,633	0
3月	9,455	9,724	11,083	20,174	11,399	15,360	16,757	17,131	57	250
4月	7,758	12,117	22,777	11,968	12,458	11,368	13,619	9,376	0	44
5月	8,881	11,452	9,618	18,052	15,842	19,179	23,038	16,285	0	4
6月	11,489	15,624	13,603	11,944	31,085	13,653	21,982	21,627	0	0
7月	10,112	11,371	22,887	14,410	18,515	16,424	22,963	18,194	0	28
8月	7,886	9,810	8,658	12,873	14,660	17,702	13,961	20,055	0	0
9月	15,779	13,859	18,153	15,331	26,116	25,175	27,839	25,455	0	22
10月	47,023	20,069	27,178	23,646	34,812	28,846	25,078	30,967	7	161
11月	24,299	16,064	22,315	25,148	21,055	17,932	22,861	27,116	67	172
12月	6,572	6,887	9,793	8,041	9,834	9,627	9,167	9,045	11	48
合計	156,914	136,553	178,733	175,033	216,022	186,648	209,597	213,394	6,603	750

図表1-13 月別 国際会議の外国人参加者数の構成比(2012年～2021年)



[図表1-12、1-13] 注：会議以外の要素が含まれている国際会議(展示会主体の併設会議など)に関しては、会議部分の参加者数を計上している。

[図表1-12、1-13] 注：国際会議が月をまたがって開催されている場合、開催日数が多いほうの月に計上した。また、この場合、開催日が前の月と後の月で同数であれば前の月に計上した。

[図表1-13] 注：構成比は小数点第二位を四捨五入して計算しているため、各構成比の合計は必ずしも100にはならない。

7

都市別 国際会議の開催状況 ① (参加者数)

－ 外国人参加者数は京都市がトップハー

2021年の都市別外国人参加者数は、京都市(349人)、東京(23区)(110人)、横浜市(110人)の順となった。参加者総数では東京(23区)(29,196人)、横浜市(22,837人)、京都市(1,046人)の順であった。

外国人参加比率を見ると、東京(23区)、横浜市、仙台市が1%未満であったが、姫路市(81.0%)、京都市(33.4%)、府中市(33.3%)、柏市(26.3%)、神戸市(13.2%)におけるシェアは二桁に及んだ。(都市別の参加者数詳細は「資料編1」参照)

図表1-14 都市別 国際会議の参加者数(2021年) <上位10都市・地区を抜粋>

	外国人参加者数	参加者総数	外国人参加比率(%)
京都市	349	1,046	33.4
東京(23区)	110	29,196	0.4
横浜市	110	22,837	0.5
姫路市	51	63	81.0
神戸市	42	318	13.2
府中市(東京都)	35	105	33.3
柏市	21	80	26.3
北九州市	20	440	4.5
伊勢志摩地区(注1)	5	509	1.0
仙台市	5	568	0.9

注1:「伊勢志摩地区」は、伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、南伊勢町、度会町を含む。

注2:1つの国際会議が複数の都市にまたがって開催された場合、参加者数(外国人参加者数、参加者総数)は原則的に各都市で参加した人数を計上している。

8

都市別 国際会議の開催状況② (外国人参加者数)

— 京都市が1位に浮上 —

2021年の都市別外国人参加者数は、前年同様に大きく減少したが、京都市が東京(23区)を上回り1位となった。また、新た

に姫路市をはじめ府中市や柏市等がトップ10入りした。他方、複数の都市・地区がランク外となった。

図表1-15 都市別 国際会議の外国人参加者数(2019年~2021年)〈各年の上位10都市・地区を抜粋〉

順位	2019年	外国人参加者数	2020年	外国人参加者数	2021年	外国人参加者数
1位	東京(23区)	42,398	東京(23区)	1,620	京都市	349
2位	京都市	30,585	北九州市	1,083	東京(23区)	110
3位	横浜市	27,919	京都市	562	横浜市	110
4位	神戸市	15,641	横浜市	555	姫路市	51
5位	福岡市	11,590	福岡市	401	神戸市	42
6位	大阪市	11,060	大阪市	374	府中市(東京都)	35
7位	名古屋市	9,646	神戸市	302	柏市	21
8位	札幌市	8,218	千里地区(注1)	252	北九州市	20
9位	北九州市	7,947	仙台市	242	伊勢志摩地区(注2)	5
10位	広島市	6,642	別府市	200	仙台市	5

注1:「千里地区」は、大阪府の豊中市、吹田市、茨木市、高槻市、箕面市を含む。

注2:「伊勢志摩地区」は、伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、南伊勢町、度会町を含む。

注3:1つの国際会議が複数の都市にまたがって開催された場合、参加者数(外国人参加者数、参加者総数)は原則的に各都市で参加した人数を計上している。

9

ハイブリッド国際会議の開催状況

— 新たな開催形態としてハイブリッドが増加 —

COVID-19の影響で国際会議の開催件数は2020年の222件から2021年は29件へ激減したものの、リモートも併用したハイブリッド国際会議の開催件数は12件から21件へ増加（シェアでは5.4%から72.4%へ急増）し、リモート化の進展に伴い新たな開催

形態として浸透してきた。

ハイブリッド国際会議の参加者数も2020年と2021年の比較では、リモートを含めた参加者総数が前年の36,381人から65%増の60,034人へ増加している。

図表1-16 国際会議の開催状況（参加者数）（通常開催された基準内国際会議の参加者数）

開催年	開催件数	外国人参加者数	国内参加者数	参加者総数
2021年	29	750	54,471	55,221
2020年	222	6,603	89,668	96,271

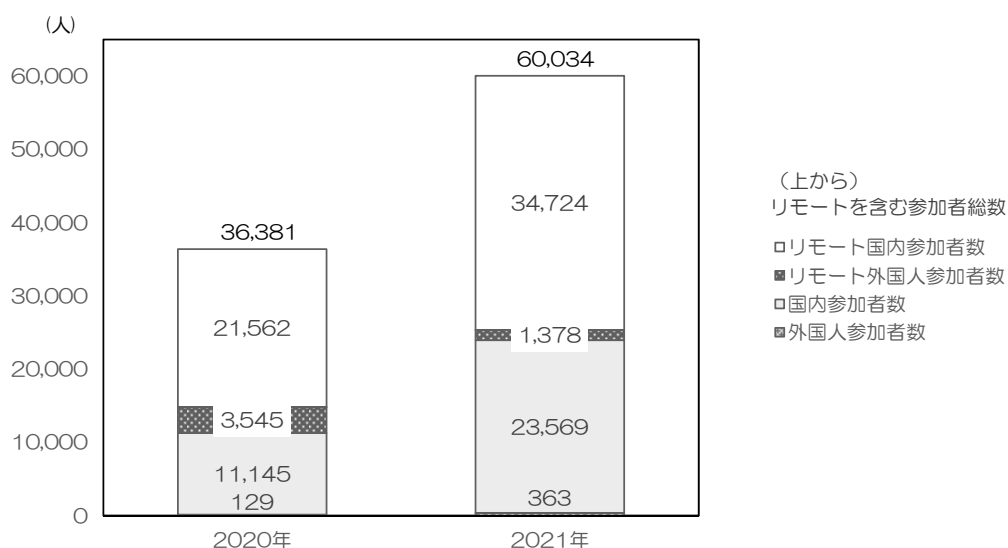
図表1-17 ハイブリッド国際会議の開催状況①（参加者数）

開催年	開催件数	外国人参加者数	国内参加者数	参加者総数
2021年	21	363	23,569	23,932
2020年	12	129	11,145	11,274

図表1-18 ハイブリッド国際会議の開催状況②（リモート参加者数）

開催年	開催件数	リモート外国人参加者数	リモート国内参加者数	リモート参加者総数
2021年	21	1,378	34,724	36,102
2020年	12	3,545	21,562	25,107

図表1-19 ハイブリッド国際会議の開催状況③（参加者の構成）



注 ハイブリッド国際会議：オンライン手法などの活用により通常の国際会議の会期中にリモートも併用して開催されたもの

10

会場別 国際会議の開催状況（開催件数、参加者数）

— 国際会議場が健闘 —

過去最低を記録した開催件数に連動し、会場別での開催件数は、パシフィコ横浜をはじめ北九州国際会議場と国立京都国際会館が複数件となったものの、他は全て1件のみとなった。前年に上位を占めた国立大学に代わり、国際会議場が上位に入る結果となった。

参加者総数では東京ビッグサイトが最多となった。外国人参加者数では国立京都国際会館が255人と突出し、1件当たりの平均外国人参加者数でも最多となった。外国人比率では、アクリエひめじが最も高く、次いで、国立京都国際会館、ホテルニューオータニ東京となった。

図表1-20 会場別 国際会議の開催件数、参加者数（2021年）

会場名	開催件数	参加者総数	外国人参加者数	外国人比率 (%)	1件当たりの平均参加者総数	1件当たりの平均外国人参加者数
パシフィコ横浜	11	22,022	91	0.4	2,002	8
国立京都国際会館	2	400	255	63.8	200	128
北九州国際会議場	2	440	20	4.5	220	10
メルパルク京都	1	445	66	14.8	445	66
ホテルニューオータニ東京	1	105	55	52.4	105	55
アクリエひめじ	1	63	51	81.0	63	51
神戸国際会議場	1	318	42	13.2	318	42
早稲田大学	1	200	40	20.0	200	40
東京外国語大学	1	105	35	33.3	105	35
京都大学	1	201	28	13.9	201	28
東京大学	1	80	21	26.3	80	21
東京ビッグサイト	1	28,891	15	0.1	28,891	15
新横浜プリンスホテル	1	715	15	2.1	715	15
仙台国際センター	1	568	5	0.9	568	5
三重県営サンアリーナ	1	509	5	1.0	509	5
Y-PORTセンター	1	100	4	4.0	100	4
岡山コンベンションセンター	1	59	2	3.4	59	2

注1：本表では、複数会場を利用して開かれた同一会議は、会場をベースに集計してある。

注2：本表では、大学等の附属施設は大学での開催件数に含めている。また、複数都市にキャンパスがまたがる場合は、まとめて計上している。

注3：会議以外の要素が含まれている国際会議（展示会主体の併設会議など）に関しては、会議部分の参加者数を計上している。